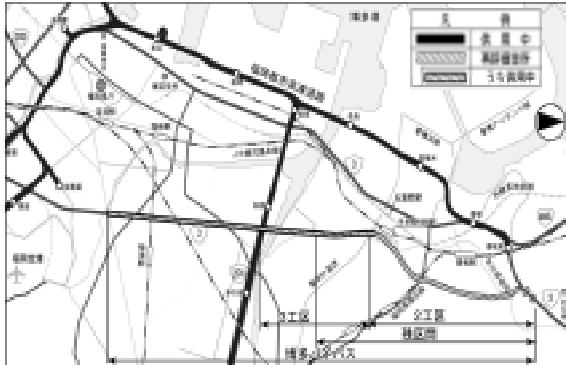


再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名	一般国道3号 <small>はかた</small> 博多バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	自：福岡県福岡市東区下原 至：福岡県福岡市東区二又瀬			延長	7.7 km	
事業概要	一般国道3号は、北九州市から福岡市、熊本市を經由して鹿児島市に至る延長約426.4kmの路線であり、福岡県や九州の骨格道路として、社会・経済・生活を支える重要な路線である。博多バイパスは、福岡市東部地区に延長7.7kmの6車線道路である。					
S43年度事業化	S21年度都市計画決定 (S43年度変更)	S44年度用地着手	S46年度工事着手			
全体事業費	約449億円	事業進捗率	61%	供用済延長	4.4 km	
計画交通量	28,900～75,800台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 3.2 (残事業) 6.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 136/663億円 (事業費：125/640億円 維持管理費：10/24億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 825/2130億円 (走行時間短縮便益：777/1952億円 走行費用減少便益：29/111億円 交通事故減少便益：19/65億円)	基準年	平成15年	
事業の効果等 ⁽⁴⁾	・円滑な物流の確保(現国道3号の渋滞損失時間を削減、福岡空港島の物流拠点へのアクセス性向上) ・都市の再生(博多バイパス沿線で進展中である『香椎副都心土地区画整理事業』を支援) 他5項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	博多バイパスは、沿線の香椎地区で進められている『香椎副都心区画整理事業』の推進等に重要な役割を果たすことが期待されており、地元自治体から早期整備が望まれている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	自動車保有台数の増加、物流施設新規立地等のため、香椎地区における交通混雑は年々深刻化している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	博多バイパスは、昭和43年に事業化され、平成15年7月30日に3工区の残区間となっていた約400mが供用するなど、バイパス延長7.7kmのうちの約4.4kmが現在供用している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	平成14年度末現在で事業進捗率は61%、用地買収は80%となっており、今後も引き続き関係機関協議、用地買収等を促進する。					
施設の構造や工法の変更等	盛土擁壁の設計において、補強土壁および大型ブロック積み擁壁を採用し擁壁工のコストを削減し、また、プレキャスト構造物を設計に反映することでコスト縮減を図っている。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。